



私は、いわゆるダム屋である。山岳トンネルやケーソンも施工したが、ダムに対する思いはひときわ強い。

ダムによる「地球の彫刻」が、自然の改変につながることは承知しているが、それ以上に人類の生活に欠かせぬからこそ、古代から人は川をせ

き止めてきた。ダムは洪水から身を守り、電気を起こしてきた。

それでも一度や二度は川に石を積んで、水をせき止めようとしたことがあるだろう。しかし意外に難しく、積んだ石は川の流れに負けてしまうし、はたまた石の間から水が漏れてしまう。そんな時に、水をせき止めるというこの技術の高さを身をもって知ることができた。

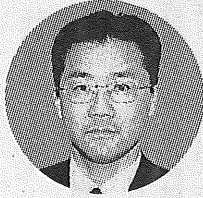
さて、そんなダム屋の憧れは揚子江に建設中の「三峡ダム」を完成前に

中国環境共生事情②

「三峡ダム①」

ハタコンサルタント代表

降旗 達生



一目見ることだ。そして実際に目にした「三峡ダム」の規模は、驚くばかりである。

また有史以来、20年に1回の割合で発生している大洪水を防ぐために、393億立方メートルの貯水容量のうち、221億立方メートルの調整容量を持つ。

コンクリートの使用量2700万立方メートル（東京ドーム40杯分）、総発電量1820万千瓦ワットは、いずれも世界一だ。

「三峡」と呼ばれる大峽谷、13の都市、1208基の遺跡が水没する。またヨウスコウカワイルカなどの絶滅危惧種への影響などである。

年間発電量847億キロワット時（日本の総発電量の10%）、ダム堤長2309メートル（黒部ダムは490メートル）、ダム高さ175メートル（JRセントラルタワーズ245メートル）など、想像を絶する規模である。

はたして、ダムが環境と共生することはできるのだろうか。（つづく）